

●外来受付時間（外来患者様駐車場無料）

内 科	月 ～ 金	8:30～11:00	12:30～15:00	17:30～20:00
精 神 科 (小児心療科)	月 水 金 火 木	8:30～11:00 8:30～11:00	12:30～15:00	
※精神科(小児心療科)は電話で予約(082-232-6195)のうえご来院ください。再診の方の診療時間は17:00までとなっています。				
小 児 科	月 ～ 金 土 日 祝	8:30～11:00 24時間(救急)	12:30～15:00	17:30～翌朝8:30(救急)
※小児科は上記受付時間以外でも救急診療は受け付けています。				
外 小 児 外 科	科 月 ～ 金	8:30～11:00	月と金 12:30～15:00	
皮 膚 科	水		12:30～16:00	
耳 鼻 咽 喉 科	土(盆は休診)			19:00～22:30(救急)
麻 酔 科 (ペインクリニック)	科 月 水 金	8:30～11:00		

病院ボランティア紹介

■折鶴 祈りを込めて糸通し

2人の方が毎週水曜日に来院して、看護師や入院中の患者さんが折った折鶴に糸を通して千羽鶴にまもっています。

「1本の糸に約50羽の折鶴を通します。患者さんの回復と平和の実現を祈りながら通しています」と安佐南区の岡本瞳さん（写真右）。

長崎市にも住んでいたことがある田浦康子さん（写真左）は「原爆の子の像のモデルとなっている12歳で亡くなられた禎子さんのことを思いながら糸を通しています」。2人が通した千羽鶴は、病院内に飾られ、患者さんや家族の方々に元気づけています。



■花づくり りぼんガーデン倶楽部

舟入公民館を拠点に活動しているグループです。

8人のメンバーが整地から種まき、苗の植え付け、水やりなどを行い、パンジーやビオラなどで植え込みを飾っています。

「4年が経過して手際よく手入れができるようになりました。美しい花を見て、皆さんが元気になってくださればうれしいです」と代表の古田光枝さん(写真後列左から3人目)。グループは、現在、参加者募集中。舟入病院の職員も加わって、花づくりに励んでいます。



▲ビオラ

投書箱

外来と各病棟に設置している「あなたのひとこと」に寄せられた投書を紹介します。



（要望）売店と食堂が別棟にあるので不便です。

（回答）本館の南側にある福利厚生棟の1階に売店と食堂を設置しており、大変ご不便をおかけしています。

付き添いのない、歩行困難な入院患者様の売店での買い物を職員が代行しています。また、食堂では弁当の配達を行っています。

（お礼）正月休みを利用して東京から帰省中、11か月になる子どもが風邪のため4日間来院しました。

時間外診察とは思えないほど丁寧な診察で、また、小児科医が多数いて、様々な意見を聞けました。

看護師も統制がとれており、たくさんの患者さんを適切に看護し、対応も親切で大変親近感が持てました。

また受診したいと思うような雰囲気の病院で、このような病院が全国にたくさんできればよいと思います。



- 広島駅より 広島電鉄 江波ゆき 舟入本町電停下車 バス 八丁堀経由 観音マリーナホップゆき または広島西飛行場ゆき 新観音橋東バス停下車
- 横川駅より 広島電鉄 江波ゆき 舟入本町電停下車
- 西広島駅より 広島電鉄 土橋電停で江波ゆきに乗換え 舟入本町電停下車

広島市立舟入病院広報紙

舟入病院 だより

平成22年
(2010年) 3月
第 4 号

編集・発行.....
広島市立舟入病院
〒730-0844 広島市中区舟入幸町14-11
TEL 082-232-6195(代表)
FAX 082-232-6156
HP http://funairi-hospital.jp/



正面玄関前

ごあいさつ

新型インフルエンザに日本中が振り回された平成21年度が終わります。メキシコに端を発し、瞬く間に世界中に広がり、あらためて広大な世界の交流の速さを認識させられました。

●貴重な経験

舟入病院でも県西部唯一の第2種感染症指定医療機関として、直ちに感染症病床の備品確保、新たな機器の導入、診療の再訓練などを開始しました。

結果的には次第に弱毒性ウイルスと判明し、徐々に季節性インフルエンザと同等の対応に移行して、多くの準備は空振りに終わりました。

しかし、日本中が差し迫った状況の中で、できる限りの知恵と工夫、ヒト

とモノ、資金をひねり出して、一つの感染症の危機に対応するという貴重な経験をすることができたことは、どんな訓練にも勝る機会でした。

そして、あぶりだされてきたたくさんの問題点をこれから検証し、対応を考えていかなければなりません。

●地域で支える医療

現実には舟入病院で起きた最大の問題点は、小児救急患者がかつてない程に一時期に集中したため、大流行の初期から診療能力の限界を超えてしまったことです。

これに対し、地域の病院、小児科開業医が直ちに立ちあがり、休日にも一つ一つの病院の開院、当番医の2～3倍増を間髪入れず実行しました。

地域の小児科医が日頃から小児救急について議論を深め、風通しのよい小児医療体制を構築していたお陰でした。

●更なる連携を

二類感染症の治療や小児救急を担うことが舟入病院の特徴ですが、いずれも流行や患者の規模が拡大すれば、単独で対応することは不可能です。

今回の経験を教訓にして、今後はさらに、各医療施設、行政、様々な関連団体との連携を深め、迅速かつ的確な対応ができる体制を作り上げていこうと考えています。



兵藤副院長